

平成29年度第1回豊田市公設地方卸売市場運営審議会 会議録概要

- 日時 平成30年3月1日(木) 午後1時30分～3時30分
- 場所 豊田市公設地方卸売市場 中会議室
- 出席者 (委員) 田端 稔 (豊田商工会議所 副会頭)  
高橋 真 (愛知学泉大学 現代マネジメント学部教授)  
草次 明 (豊一豊田青果株式会社 代表取締役社長)  
澤田 恵美子 (元 豊田市消費者グループ連絡会 会長)  
熊谷 実 (あいち豊田農業協同組合 園芸販売課長)  
池田 誉生 (愛知県中央青果株式会社 代表取締役社長)  
中村 重敏 (豊田魚市場株式会社 代表取締役専務)  
榊原 和孝 (豊田青果水産商業協同組合 代表理事)  
中根 司朗 (仲卸協同組合 理事長)  
永田 和志 (JAあいち豊田桃部会 部会長)  
鈴木 実 (JAあいち豊田しいたけ部会 副部会長)  
(事務局) 柴田 康宏 (卸売市場場長)  
勝野 一城 (卸売市場担当長)  
小椋 洋治 (卸売市場主査)

■欠席者 なし

■傍聴人 なし

- 次第
- 1 開会  
委嘱状の交付
  - 2 市場長あいさつ  
委員自己紹介
  - 3 議題
    - (1) 豊田市公設地方卸売市場経営展望について
    - (2) 豊田市公設地方卸売市場の取扱状況について
    - (3) 市場活性化の推進について
    - (4) その他
  - 4 連絡事項
  - 5 閉会

■議事(要約) (議長：高橋 真会長)

議長：議題(1)を事務局から説明を願う。

事務局：議題(1)について概要説明

(要旨)

国の第10次卸売市場整備基本方針に基づき、地域拠点市場に位置付けられた本市場は、経営展望を定めることとされている。

豊田市公設地方卸売市場経営展望(案)策定経過、本市場を取り巻く外部環境評価、市場関係者へのヒアリング、アンケート結果、施設利用上の問題点、S

WOT分析による本市場の可能性と課題、将来ビジョンと取扱目標、ビジョン実現に向けた戦略と行動計画及び重点プロジェクトについて説明。

議長：大きく分析と提言に分けて説明があったが、意見、質問等について発言願う。

委員：昭和57年の開設以来36年が経過し、登録者数も大きく減少して、地方卸売市場の同業の仲間も苦労している。話合いをしても明るい話の一つもない。

経営展望案の施設整備個所の想定に、水産棟と青果棟間の集荷・配荷所に屋根を設置とある。長年お願いしてきたが、都市計画道路がありできないと言われ続けてきた。ご承知のように各仲卸事業者は、商品が傷まないよう濡れないよう大変苦労している。是非とも特にお願したい。

合わせて、パッケージ棟は、夏には30℃を超え、商品の傷みはもとより従業員も大変である。せっかく冷房車で配送されてもコールドチェーンが途切れてしまう。冷房設備は、今後の市場の生き残りには必須である。

事務局：都市計画道路は、バイパスも完成して現道もある中、早期の実現はまずない。現在、関係部署と調整しているところだ。パッケージのコールドチェーン化についても、優先順位付けをしていきたい。

委員：建設費用はいくらかかるのか。計画すれば粛々と進めるしかないのだから、青写真を書いて進めるのが良い。

事務局：都市計画道路上の建築物となり、都市計画法上の例外規定の中で簡易なものと言う整理でしか建てられず、費用も多くはかけられない。

委員：現在、市場は売買参加者が約半分になった。老舗スーパーやイオンへの配送時や、農協からの入荷商品が野ざらしで問題がある。ここを整備すれば、青果だけではなく水産と共通で利用できるようになる。

委員：豊田市は、他に比べれば財政状況も良いので、3億でも5億かかってもこの市場を存続させるため、業務がやりやすいように整備すべきだ。

事務局：ヒアリング、アンケート及び検討会議でもこの意見が出されている。本市場をより良くするために進めたい。

委員：青果だと、低温流通を進めるメグリア、えぷろんややまのぶなどの配送に屋根を付けるのは効果があるが、水産のコールドチェーン化はそれだけでは難しく、低温流通を確保しないと買ってもらえない。量販店の配送センターの方が、条件は段違いに厳しい。生き残るための今後の展開として、市場に集荷・配送センター機能が欲しい。

議長：他の公設市場では、同様の事例はあるか。

事務局：あまりない。

委員：消費者の立場から食の安全で言えば、暑い所はだめだと思う。食の安全を考えてほしい。食べる人が高齢化し、惣菜を買うようになってきている。スーパーでは、市内産、地場産が増えている。外食産業にもっと出荷できるようになると良いが、流通はよく見えない。食育の推進、情報発信を進めてほしい。

事務局：登録事業者は減少の一途であり、市場のお客を増やすのが課題。

委員：以前、のぼりを作成していたが、引き続きPRする必要があるのではないか。

事務局：のぼりについては、青果と水産を併記したのぼりを作成したため、片方しかやっていないので使いにくいという店が多かった。新しいものを考えたい。

議長：整備計画については、概算費用を具体的に入れる方向で検討することでよいか。

事務局：今後、具体化する方向性を示すもののため、優先順位を定めたい。

議長：日本のモデルとなるような市場にしていきたい。それでは、ご意見を踏まえ、事務局案に修正を加えた上で、原案のとおり承認いただけるか。

委員：（異議なし）

議長：原案のとおり承認された。

議題(2)を事務局から説明を願う。

事務局：議題(2)について概要説明

(要旨)

経営展望の説明と重複するが、青果取扱量は微減、取扱金額は微増している。水産は、取扱数量、金額とも微減しており、全体としては、取扱量は微減、取扱金額は微増している。

議長：説明について、意見、質問等について発言願う。

委員：基本的には、取扱量を増やす必要がある。

議長：引き続き、事務局から議題(3)の説明を願う。

事務局：議題(3)について概要説明

(要旨)

市場活性化対策の状況について、卸売市場の一般開放の実績、地元野菜の取扱増加の取組について説明。

委員：ひまわりCATVなどでの周知、宣伝は行っているか。

事務局：報道機関への配布、周知を行っており、先回は、ひまわりCATVの「じもサタ」などでも放映している。また、弘前りんごや上田市の雹害りんごの販売、PRなど個別産地の支援や連携に力を入れている。

委員：購入側の立場から言うと、場内の空き店舗が気にかかっている。うちの店にも3代目が生まれる。元気な市場として何かやってほしい。

事務局：関連店舗の一般への開放などは、開設許可権者の県の実情が得られない。そのことは、農水省の市場担当部局にも話はしている。

市場直送のぼりは、青果と水産を併記したことで、片方しかやっていないお店が多く失敗だった。新たなものを検討したい。

委員：商工会議所も会員が減っている。同じような状況だと思うが、市場は、豊田市にとって必要な所だ。何とか予算化して魅力ある市場として、存続する必要がある。

事務局：相談させていただく。

議長：その他、委員から審議すべき議題があれば発言を願う。

議長：他に意見がなければ、会議を終了する。

～ 議事終了 ～